

鉄 道

(J R 常 磐 線)

- ① 不通区間：竜田～原ノ町、相馬～浜吉田
- ② 相馬～浜吉田駅間について、まちづくりと一体となった復旧を円滑に進めることができるよう、沿線地方公共団体、J R 東日本、復興庁、東北地方整備局及び東北運輸局からなる復興調整会議を設置し、復旧について検討。
この検討結果等を踏まえ、ルート移設等により用地取得等を前提として、平成 26 年春の工事着手、平成 29 年春頃の運転再開を目指す。
- ③ 避難指示区域内（原ノ町～小高間）の区間については、平成 27 年 3 月 10 日に全線開通の見通しを決定したところ。原ノ町～小高間については、平成 28 年春までに開通するなど区間毎の開通時期の見通しを示したところ。また、帰還困難区域を含む浪江～富岡間については、除染や異常時の利用者の安全確保策を完了した後、開通することとしている。
- ④ 平成 26 年度の目標
相馬～浜吉田駅間については、本年春に工事着手し、平成 29 年春頃の運転再開を目指す。
福島第一原子力発電所事故に伴い設定された避難指示区域内の一部区間（竜田～広野）については、運転再開を確実に実施できるよう関係者間の調整を図っていく。
他の区間についても、除染の進捗やまちの復興状況を踏まえつつ、早期運転再開に向けた取り組みを進めるよう引き続き J R 東日本を指導。
- ⑤ 平成 26 年度における成果
相馬～浜吉田駅間については、平成 25 年春頃より用地取得に着手し、9 割を超える進捗状況。
竜田～広野間については、楢葉町の帰町判断を踏まえ、26 年 6 月 1 日に運転を再開した。合わせて列車のダイヤにあわせたバスの運行を実施。
また、浪江～富岡間について、線路上の空間線量の調査の実施や詳細な被害状況を実施。
本年 3 月 10 日には、全線開通の方針を示すとともに、具体的な開通見通しを決定。
- ⑥ 平成 27 年度の目標
相馬～浜吉田駅間については、平成 26 年春に工事着手し、平成 29 年春頃の運転再開を目指す。
原ノ町～小高間については、平成 28 年春までに開通を目指す。

また、開通時期の見通しを示した区間や帰還困難区域を含む浪江～富岡間については、引き続き、関係省庁の副大臣やＪＲ東日本等で構成するＪＲ常磐線復旧促進協議会の場を生かしながら、復旧に向けた取組を進める。

インフラ復旧の工程表(鉄道)

平成27年3月末現在

●→ : 工程が見込めるもの ●.....→ : 工程が現時点で見込みにくいもの

事業	整備主体	被災/稼働状況	H26年度の目標 (H26.6公表)	H26年度に実施 したこと(成果)	H27年度に実施 すること(目標)	27年度				28年度				29年度				30年度以降	備考・ポイント等
						4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月		
鉄道																			
JR常磐線	JR東日本	不通区間: 原ノ町～竜田、 相馬～浜吉田	相馬～浜吉田駅間については、平成26年春に工事着手し、平成29年春頃の運転再開を目指す。 福島第一原子力発電所事故に伴い設定された避難指示区域内の一部区間(竜田～広野)については、運転再開を確実に実施できるよう関係者間の調整を図っていく。 他の区間についても、除染の進捗やまちの復興状況を踏まえつつ、早期運転再開に向けた取り組みを進めるよう引き続きJR東日本を指導。	・相馬～浜吉田駅間については、平成25年春頃より用地取得に着手し、9割を超える進捗状況。 ・竜田～広野間については、楡葉町の帰町判断を踏まえ、26年6月1日に運転を再開した。合わせて列車のダイヤに合わせたバスの運行を実施。 また、浪江～富岡間について、線路上他の空間線量の調査の実施や詳細な被害状況を実施。 本年3月10日には、全線開通の方針を示すとともに、区間毎の開通見通しを決定。	・相馬～浜吉田駅間については、平成26年春に工事着手し、平成29年春頃の運転再開を目指す。 ・原ノ町～小高間については、平成28年春の開通を目指す。 また、開通見通しを示した区間や帰還困難区域を含む浪江～富岡間については、引き続き、関係省庁の副大臣やJR東日本等で構成するJR常磐線復旧促進協議会の場を生かしながら、復旧に向けた取組を進める。	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→		

※本工程表に記載の内容については軽微な修正を行う場合があります。